

声かけ・対話で 増やす 増やす 増やす 組合員総がかいで「総当たり一週間」とりくもう!



発行
〒850-0013 長崎市川2丁目2番5号
長崎高教組会館
長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 小田 誠
購読料 一部10円
組合員は組合費に含む
メールアドレス
naga-kks@sinet.
or.jp

声かけ・対話で増やす増やす増やす「総当たり一週間」のとりくみ
○とりくみの期間 11月27日(月)～12月3日(日)
※学校行事等の関係でこの期間で実施が困難な分会は別の期間に実施
○とりくみのすすめかた

分会で、重点声かけ対象者を決め、要求や関心にもついた話題で声かけをおこなう。分会長や支部役員だけでなく、すべての分会員で声かけにとりくむ。重点対象者に対し、担当者が声かけ対話を行うとともに、複数の分会員が声かけをおこなう。

☆初任者や講師の先生への声かけ
朝早くから夜まで気を張
☆期末考査期間中の職場集会に参加を呼びかける
恒例となっている定期考査期間中の職場集会を実施します。お弁当を準備し、みんなで美味しいものをいただきながら、学校のことや生徒のこと、世の中のことを、ゆっくり語りあいます。若い先生方が自由に語ってくださることを願っています。本部からの補助をお願いします。
☆組織拡大・強化 秋の陣Ⅱのとりくみを要請した文書の送付直後から、「総当たり一週間」についての各分会の計画表が本部に届き始めています。これまでに届いた計画表をいくつか紹介します。

「長崎高教組組織建設3か年計画」完成年度の今年、各分会・各支部の奮闘の結果として、11月上旬時点で昨年度を超える新規加入を実現しています。しかし、目標となっている現勢を回復し、増勢に向かうところまでは残念ながら至っていません。
こうした中で、11月11日に開催した第6回代表者会では、「組織拡大・強化 秋の陣Ⅱ」の軸となるとりくみとして、「総当たり一週間」(概要は別掲)にとりくむことを確認しました。長崎高教組の組合員全員が総がかいでこのとりくみをすすめ、組織拡大の大きな飛躍をつくりだしましょう。あらためて、子どもを主人公とした教育と我々教職員の生活を守るために仲間を増やすことを、高教組新聞を通して組合員一人ひとりに訴えます。

「総当たり一週間」計画表が届いています

「組織拡大・強化 秋の陣Ⅱ」のとりくみを要請した文書の送付直後から、「総当たり一週間」についての各分会の計画表が本部に届き始めています。これまでに届いた計画表をいくつか紹介します。

全国教職員学習交流集会 in 佐賀(唐津) 長崎から10人(青年教職員4人)が参加



11月18・19日、教組共関連絡会と全国高校組織懇談会の共催による、全国教職員学習交流集会 in 佐賀が唐津ロイヤルホテルで開催され、全国から200人を超える教職員が集まり、学習と交流を深めました。長崎高教組からは10人(2日間通し参加7人・1日参加3人)が参加しました。青年部から4人が2日間通しで参加しました。

佐賀県教組唐津支部の青年部による三宅太鼓のオープニングで始まった全体会は、主催者などのあいさつや基調報告に続いて、教育NPOのSOMA副代表理事の鈴木大裕さんによる記念講演が行われました(分かりやすさ興味深い内容だったので後半で概要を紹介します)。その後、5つの分科会と4つの講座が2日目まで開かれ、1日目の夜には全体での夕食交流会とともに青年教職員等の各分野の交流会もおこなわれました。長崎高教組からは、寺田書記次長が高校での通級について、今泉執行委員が長崎工業

での平和学習について、分科会でのレポート報告を行い、それぞれの分科会で高い評価をえ、学習会へのお誘いや学校訪問の申し入れなどがありました。教研の長崎高教組の面目躍如というところです。
青年部の4人の参加者はそれぞれに感じるどころが多くあったようです。ことに夕食交流会では多くの刺激をもたらしたようです。あらためて、「若者を直接「全国や中四九ブロックへ」のとりくみの有効性を感じました。



レポート発表する寺田さん(上)と今泉さん(下)

【記念講演の概要】

アメリカの公教育は近年、ファーストフード店のようになり、次々と学校を開く「マックチャーター」とよばれる公設民営学校が勢力を伸ばしてきています。「マックチャーター」は「学力困難校」に指定された従来の公立学校を置き換える形で数を増やしてきました。これららの学校は、テスト至上主義、効率化の徹底追求、学習スタンダード、ゼロトレランスを組み合わせたスパルタ教育を展開し、貧しい家庭の子を大量に大学に送ることで成功をおさめてきました。アメリカで行われてきた新自由主義に基づく市場型教育改革には、「3本の楔」による再定義がありました。1本目はデータとなる「学力」、2

りつめて仕事に邁進している若い先生方、特に新任の先生や講師の先生に声かけを紹介します。すでに秋の教研を紹介し、参加するのよう返事や、興味があるので参加したいけど残念ながら友人のお祝い事で参加できないという残念な返事をもたらしたりしています。ただ、ゆっくり話をする時間が見あたらない。本当に皆さん仕事ばかりしていて、声かけする隙がない。なんとか、隙をみつけて、無駄話から、総合共済、組合のことを紹介できたらいいな。せっかくなので「総当たり一週間」だから、そのつもりで動いてみよう。全教共済の「あなたをひとりにもせんとく」教職員の助け合い」というコンセプトを伝え、加入を実現し、カステラをゲットしたい。



☆専門教科のつながりでの声かけ
各種検定やコンクール等の指導で日々忙しかついている専門教科の若い先生方に、ねぎらいの声かけをするのと同時に、問題に思っていることや疑問点をまっすは聴くことから始めます。

本日は教師の「指導力」をテストの点数向上のためのテクニックや動作へ、そして3本目は「何を教えるか」を定めていたカリキュラム・スタンダードを「何が出来るようになるか」というパフォーマンス・スタンダードに再定義しました。そして、新自由主義の「小さく、強大な政府」の監視のなかで、各学校や教員が学力標準テストの点数でランク付けされ、「結果責任」を果たせない学校は廃校、教員は職を追われるようになりました。人を育てる場所であったはずの学校は、点数競争でテスト対策主体の進学塾のようになり、市場化と民営化が進むことで公教育の概念そのものの崩壊が起こっています。日本でも、悉皆式の全国学力調査、学校別の成績開示、カリキュラム・スタンダードであった学習指導要領をパフォーマンス・スタンダードへ変えるなど、今まさにアメリカをモデルとした教育改革へ邁進しています。



長崎からの1日目の参加者

ヒバクシャ国際署名 県内で27万4千筆余に到達

「県民の会」結成一周年のつどい

「ヒバクシャ国際署名」をすすめる長崎県民の会は、11月4日、結成一周年のつどいを開催し、被爆者団体やとりくみに賛同する諸団体から約120人が参加しました。高教組からは、組織を代表して馬場書記長が参加しました。つどいでは、被爆者団体代表のあいさつと事務局からの1年間の活動報告の後、生活協同組合ララコープが集めた約11万3千筆の署名が寄託され、県内で集約された署名が、27万4182筆に達したことが発表されました。

保有国も含めて世界中の国が核兵器禁止条約に加入することをめざすという核兵器廃絶のとりくみの具体的なゴールが明確になったことなどをあげました。



ララコープから寄託された約11万3千筆の署名

署名目標の達成に向けてとりのくみを強めよう

つどいのまとめとして、県民の会の朝長方左男共同代表は「市民社会から声を上げていくことが大切。2年も署名を集める努力を続けよう」と呼びかけました。県民の

原発事故から6年8ヶ月「被災地を見る・歩く・考える」原発事故被災地・福島を訪ねるツアーに参加して

つどいでは、「核兵器禁止条約をめぐる国際情勢」という演題で、長崎大学核兵器廃絶研究センターの広瀬副センター長による講演も行われました。講演の中で広瀬氏は、核兵器禁止条約成立の意義として、核兵器の非人道性が確認され、核保有国も否定できない状況になっていること、核



11月4日に学習会、5日に貸し切りバスを使って、東日本大震災と福島第一原発事故に被災した南相馬市と浪江町に、昨年引き続き訪れる機会を頂いた。昨年との大きな違いは、避難指示が解除され、住民が戻れることが可能になった市町村や地域が広がったことなので、そのことが気になった。

4日の学習会では、元NHKディレクターの根本仁氏による講演「福島

原発事故後6年半の現状と生業訴訟判決」を聞き、質疑応答が行われた。政府や東京電力の場当たり的な対応と隠蔽体質、その後の不誠実な対応であった。未だに原発事故の内容すら明らかにされないままの安全宣言や名ばかりの復興では、とても安心して居住するなどできないと感じた。

5日のツアーでは、昨年と同じルートをとって頂いたため、昨年の思い出しながら見学させて頂いた。原発から離れている地域では、農業が再開され、交通量が格段に多くなっているなど、活気を感じることができた。放射線量が低くなっており、復興が軌道に乗り始めたのかなと思いましたが、戻ってこれない家族も多

く、人手不足は深刻だそう。また、放射線量率も道路や民家から林野に入ると急激に上昇し、危険な場所もあるようだ。避難指示が解除されてもほとんど帰宅する人がない地域が見られるようになった。バスの中でも何回か放射線量率計の値が10倍以上になる場所があるなど、この状態を安全と見做す政府の姿勢に大きな蟬りを改めて感じた。

途中、パトカーをよく見かけたが、今でも空き巣狙いの不審者多く、巡回していたり、避難区域の境界では、警備の警察官が勤務しておられた。パトカーも他県ナンバーをよく見かけ、応援にきているようだ。高率の放射線を浴びながらの勤務であらう。

国や電力会社の地域や被災者の現状を無視した復興のあり方や避難指示の解除の仕方など、さしこみした視点で検証し、声を上げ続け

全労連・国民春闘共闘・国民大運動実行委員会は、安倍9条改憲ストの改悪阻止、賃金的大幅引き上げなどを求めて、11・8中央行動を実施し、中央決起集会や国会請願デモなどに、全国から約3500人が結集し、

公務労組連絡会は、独自に11時から財務省前要求行動を行い、600人が参加し、「軍事費を削って大幅増員を」とのちと暮らしを守る予算策定を、「公務公共サービスを守れ」「退職手当の削減は許さない」などのシュプレヒコールを財務省にぶつけま

した。12時過ぎからは、日比谷野外音楽堂で中央決起集会が開かれ、官民の労働者約1500人が参加しました。集会では、国労連、建交労、生協

委員長の開会のあいさつを行った後、「奨学金の会」の事務局を担っている学生支援機構労働の藤井事務局長が、1999年の有利子化以降の奨学金ロー化阻止のとりくみを報告し、「教育は社会を豊かにする公共投資」必要な人がいつでも学べる教育を」と訴えました。

各分野からの発言では、大学院生協議会や全労連青年部から、院生のおかれている状況や奨学金返済が若い労働者の大きな負担になっている状況等が語られました。中でも参加者の大きな共感とともに、

「学ぶことが権利である」と訴えることができるのがうれしい。各分野からの発言では、大学院生協議会や全労連青年部から、院生のおかれている状況や奨学金返済が若い労働者の大きな負担になっている状況等が語られました。中でも参加者の大きな共感とともに、

「学ぶことが権利である」と訴えることができるのがうれしい。各分野からの発言では、大学院生協議会や全労連青年部から、院生のおかれている状況や奨学金返済が若い労働者の大きな負担になっている状況等が語られました。中でも参加者の大きな共感とともに、

組合は であい ふれあい たかめあい

11・8 中央行動に全国からのべ3500人が結集



公務労組連絡会、独自に11時から財務省前要求行動を行い、600人が参加し、「軍事費を削って大幅増員を」とのちと暮らしを守る予算策定を、「公務公共サービスを守れ」「退職手当の削減は許さない」などのシュプレヒコールを財務省にぶつけました。

長崎高教組からも1人が参加しました。公務労組連絡会は、独自に11時から財務省前要求行動を行い、600人が参加し、「軍事費を削って大幅増員を」とのちと暮らしを守る予算策定を、「公務公共サービスを守れ」「退職手当の削減は許さない」などのシュプレヒコールを財務省にぶつけました。

長崎高教組からも1人が参加しました。公務労組連絡会は、独自に11時から財務省前要求行動を行い、600人が参加し、「軍事費を削って大幅増員を」とのちと暮らしを守る予算策定を、「公務公共サービスを守れ」「退職手当の削減は許さない」などのシュプレヒコールを財務省にぶつけました。

長崎高教組からも1人が参加しました。公務労組連絡会は、独自に11時から財務省前要求行動を行い、600人が参加し、「軍事費を削って大幅増員を」とのちと暮らしを守る予算策定を、「公務公共サービスを守れ」「退職手当の削減は許さない」などのシュプレヒコールを財務省にぶつけました。

長崎高教組からも1人が参加しました。公務労組連絡会は、独自に11時から財務省前要求行動を行い、600人が参加し、「軍事費を削って大幅増員を」とのちと暮らしを守る予算策定を、「公務公共サービスを守れ」「退職手当の削減は許さない」などのシュプレヒコールを財務省にぶつけました。

全労連・国民春闘共闘・国民大運動実行委員会は、安倍9条改憲ストの改悪阻止、賃金的大幅引き上げなどを求めて、11・8中央行動を実施し、中央決起集会や国会請願デモなどに、全国から約3500人が結集し、



財務省前行動での全教の仲間

11月8日には、教育無償化と給付奨学金の拡充を求めている奨学金の会の事務局を担っている学生支援機構労働の藤井事務局長が、1999年の有利子化以降の奨学金ロー化阻止のとりくみを報告し、「教育は社会を豊かにする公共投資」必要な人がいつでも学べる教育を」と訴えました。

各分野からの発言では、大学院生協議会や全労連青年部から、院生のおかれている状況や奨学金返済が若い労働者の大きな負担になっている状況等が語られました。中でも参加者の大きな共感とともに、



組合は であい ふれあい たかめあい



全く人通りがない風景